

海の日



国土交通省港湾局長 稲田 雅裕

「海の日」に寄せて

平素より、港湾行政の円滑な推進にご理解とご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、コロナ禍におけるサプライチェーンの混乱・途絶、資源エネルギーの高騰など、我が国経済はかつてない大きな影響を受けております。

このような情勢の変化に対応するためには、ハード・ソフトのあらゆる手段を活用し、社会が抱える課題に解決策を提示する「新しいインフラ行政」を推進しなければなりません。

激変する世界情勢のもと、我が国企業のサプライチェーンの強靱化に資する国際幹線航路を維持・拡大していくことが喫緊の課題となっていることを踏まえ、本年2月に設置した「新しい国際コンテナ戦略港湾政策の進め方検討委員会」において、令和6年度から概ね5年間程度で取り組むべき施策の方向性について議論し、本年6月に中間とりまとめを行いました。これまでの「集貨」「創貨」「競争力強化」の取組に加え、DX、GXを達成しながら競争力のある港湾を形成するため、東南アジア等からの広域集貨やコンテナターミナルの一体利用、大水深・高規格コンテナターミナルの整備・再編、「ヒトを支援するA1ターミナル」の深化のための荷役機械の高度化等の技術開発を進めていくとともに、港湾の物流手続の電子化等を進め、貨物のトレーサビリティ確保にも資するサイバーポートについて、今年度中に物流・管理・インフラの3分野一体での運用を実現するなど港湾全体の生産性向上に向けて取組を進めてまいります。

あらゆる施策で「新しいインフラ行政」を推進

トラックドライバーの労働力不足が懸念される「物流の2024年問題」への対応として、モーダルシフト等に対応するための内航フェリー・RORO船ターミナルの機能強化が必要不可欠であり、必要となる港湾整備及び情報通信技術を用いた荷役効率化等の取組を進めるため、「次世代高規格ユニットロードターミナル検討会」を設置し、議論を進めてきたところです。本年6月に中間とりまとめを行ったところであり、船舶大型化等に対応した港湾整備や、ターミナルにおけるシャーシ位置管理等のシステム整備、貨物輸送需要を踏まえたシャーシ置き場、小口貨物積替施設、リーファープラグの整備等を推進してまいります。

世界的な脱炭素化に向けた動きや政府方針等を踏まえ、気候変動対策を着実に推進していく必要があります。

緩和策として、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や水素等の受入環境の整備等を図るカーボンニュートラルポート(CNP)の形成を推進してまいります。加えて、日本の港湾と海外主要港を結ぶ「グリーン海運回廊」の実現に向けた国際連携に取り組みしてまいります。また、ブルーカーボン生態系の活用によるカーボンニュートラルの実現等を図り、「命を育むみなのブルーインフラ拡大プロジェクト」を推進してまいります。

再生可能エネルギーの主力電源化の切り札である洋上風力発電については、洋上風力発電設備の設置及び維持管理に不可欠となる基地港湾として、本年4月には、新たに「新潟港」を指定しました。今後も洋上風力発電の案件形成の状況や技術開発動向等を踏まえ、基地港湾の計画的な整備を進めてまいります。

本年3月、コロナ禍で停止していた国際クルーズが本格的に再開しました。本年においても、多くのクルーズ船の寄港が予定されており、令和5年をクルーズリスタートの年として、クルーズ船の受入環境整備や寄港促進に向けた取組、地域経済効果を最大化させる取組、地方誘客促進に向けた取組を推進します。さらに、昨年12月には、みなの緑地PPP制度を創設し、民間活力による魅力的な港湾空間を形成してまいります。

このほか、切迫する巨大地震・津波や頻発する台風等による高潮・高波被害等への対策等の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を確実に進めるとともに、気候変動等を考慮した臨海部の強靱化のあり方について、本年夏頃取りまとめ予定の交通政策審議会の答申を踏まえ検討してまいります。

最後に、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」ことを趣旨とする海の日を機として、「みなの」から我が国の抱える社会課題の解決を図り、国民全体のQOL(Quality of Life)向上を果たすとともに、海洋国日本の発展により一層貢献できるよう、努めてまいります。

自慢のグルメが大集合 Sea級グルメ全国大会 2023.10.28~29 沼津市で



昨年開催された八幡浜大会の様子(沼津市提供)

港を中心とした地域振興に貢献

日本各地の「みなのオアシス」から、えりすぐりの港グルメが集まる「Sea級グルメ全国大会」が今年も開かれる。みなのオアシスは「みなの」を核としたまちづくりを推進する施設の愛称で、国土交通省が認定・登録をする。年に一度「みなのオアシス全国大会」の一環として、グルメイベントを実施している。「Sea級グルメ」とは地元で水揚げされた水産物による、当地グルメ。大会では来場者の投票によって、その年のナンバーワンを決定する。14回目となる今回は10月28、29日の2日間、市庁100周年を迎える静岡県沼津市の沼津港(みなのオアシス沼津)で行われる。新型コロナウイルス感染症の5類移行後の開催で、多くの来場者が期待される。主催はみなのオアシスSea級グルメ全国大会10沼津実行委員会と、みなのオアシス全国協議会。

駿河湾に面する沼津港は、日本一深い湾でサバやアジの他、深海魚など数多くの魚が水揚げされる。県内多数の水産物販売店や、新鮮な地産水産物を求めて国内外から多くの観光客が訪れる人気スポットだ。大会事務局を務める沼津市産業振興部水産漁業課の北村和孝主査は「市内随一の観光地として全国大会を開催することで、基地としてEVバス(グリーンバス)を導入し、駅と港をつなぐ。市では地元開港に合わせて、沼津を代表する新たなグルメ「沼津小判めし」を考案した。北村主査は「本イベントは露店形式のため、当日自慢の刺身や海鮮料理などの提供は難しい。そこで同市在住者と在勤・通学者を対象としたレシピコンテストを実施した」と話す。1次審査と試食を含む最終審査を経て、70件の応募から「沼津小判めし」が最優秀レシピに選ばれた。「沼津小判めし」は小判型のご飯の上に、名物のアジの干物と深海で獲れるエビを載せたグルメ。レシピが決まった後、大会に出品する事業者を決める「沼津

地元での周知強化も

Sea級グルメグランプリ」を実施し、オリジナルレシピを募集し、オリジナルレシピを加えた小判めしを地元事業者が披露した。当日はグランプリを受賞した「まるが港食堂」が「アジの干物の小判めし」と「深海エビの小判めし」の二つをセットで提供する。会場周辺の整備も着々と進む。15年に静岡県が主体となり策定した「沼津港みなのまちづくり推進計画」に基づき、内港の東側岸壁では、延長35メートルの2本の浮き橋を建設中。海側からの船舶受け入れ機能を整備することで、きわい創出を図る。20年に一部が完成し、暫定供用を開始。21年8月には「海の日」として認定された。大会前の全体完成を予定している。西側物揚場の背後には倉庫が集積地だったが、計画に基づき県が緑地帯を整備。大会期間中は沼津市の特産品を販売するアース



会場となる沼津港(静岡県提供) 内港で整備中の浮き橋



また大会を盛り上げるための広報活動として、市内の小中学生と保護者をターゲットとした「Sea級グルメ新聞」を制作した。「過性のイベントではなく、継続的な地域活性化につなげるためには市民への周知拡大が不可欠だ。特に子どもに知ってもらいたい」と、水産業者もよび、港湾振興に興味を持つ「ほしほし」(北村主査。現在まで2回発行し、900部を市内小学校の全児童に配布。地元で認知度は徐々に高まってきているようだ。第3号は大会直前の9月発行を予定し、さらなる周知を図る。



今大会で提供する「まるが港食堂」の沼津小判めし(沼津市提供) ■深海エビの小判めし: カレー風味のご飯に深海で獲れる希少なエビをたっぷり使ったソースを載せた一品。深海エビの素揚げを丸々1本添えている。 ■アジの干物の小判めし: 沼津産のアジの干物と一緒に炊き込んだご飯に、炭火で焼き上げた丁寧に骨を取り除いたほぐし身を載せた一品。 第14回みなのオアシスSea級グルメ全国大会in沼津 ■開催日: 2023年10月28日(土)、29日(日) ■会場: 沼津港(みなのオアシス沼津) ■出店数: 30店舗超 ■入場料: 無料 詳しくは大会ホームページ(https://seakyu-numazu.jp/)。

公益社団法人 日本港湾協会 理事長 藤孝生 副理事長 大脇崇生 東京港区赤坂三丁目三番五号 電話03-5549-9575 URL: https://www.pha.or.jp/

新たな挑戦が始まる An Era of New Challenge Begins 五洋建設株式会社 https://www.penta-ocean.co.jp/

Table listing various industry associations and their contact information, including 港湾空港総合技術センター, 全日本漁港建設協会, 日本港湾空港建設協会連合会, etc.

ここにしかない技術で未来を支える。 株式会社 不動テトラ FUJOTETRA 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町7番2号

若き感性、築いた伝統。 若築建設 WAKACHIKU 〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-18

海風とかなえるカーボンニュートラル 東洋建設 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105

私たちの今が、社会の未来を創る Create Value. Build the Future. 東亜建設工業 TOA CORPORATION 〒163-1031 東京都新宿区西新宿3-7-1



2023 海の日

# 海と触れ合い文化醸成する機会を

海洋建築が専門の畔柳昭雄日本大学名誉教授は、これまでに出版した著書『日本の海水浴の歴史をひもとく』全国にある「海の家」を調べて建築的目録でそれぞれの特徴を示すなど、ユニークな活動を展開してきた。四方を海に囲まれながら、海と密接に関わる機会が減っている日本の現状を憂う畔柳氏、海の文化を醸成するために「子供の頃から海を考える機会を作る」ことが大切ではないかと訴える。

日本大学に海洋建築工学科が設立され関与してきた経緯を。1971年に日大理工学部建築学科へ入学した。当時はまだ高度経済成長期で建築分野は人気もあり、1学年360人程度在籍し、3クラスありました。73年に学科内に海洋建築コースが設けられ、その後、78年に建築学科から独立して海洋建築工学科が設立されました。81年博士後期課程修了の時、助手に採用されました。海洋建築工学科を提唱したのは当時理工学部長であった加藤彦生先生です。加藤先生は若い頃からクルーズ船の設計に携わられた経験から「建築学の次の進出分野は海だ」と言われていました。

## インタビュー

### 日本大学名誉教授

## 畔柳 昭雄氏



（くろやなぎ・あきお）海洋建築工学科長。日本大学理工学部建築工学科本、博士課程修了、工学博士。同大学院特任教授を経て、2022年名誉教授、中国青島理工大学客員教授、三重県出身、70歳。

考えられてきたのでしょうか。日本では建築家の菊竹清訓が世界に先駆けて『海上都市』（1959年）を発表し、大高正人が『東京湾海上帯状都市構想』（1959年）、丹下健三が『東京計画1960』を発表するなど、海また、（こ）にあげた本は韓国で洋資源としての海洋空間を利用する提案が数多く出されました。72年に当時の建設省建築研究所が総合技術開発プロジェクトで『海洋構造物建設技術の開発』を始め、たこともあり、海洋分野への関心が高まりを見せ、沖縄国際都市博覧会（75年）では『未来海都市博覧会（75年）』が掲げられました。『アクアポリス』が掲げられました。79年には当時の国土庁が大都市圏を対象に『浮き地盤構想』の研究を進め、80年代後半には『ウォーターフロント』がブームになり、東京の臨海部をはじめ全国で開発が進められました。

海と建築に関するこれまでの研究活動は。『海洋建築の構図』(Process Architecture, 1991年)、『海洋性クリエーション施設・計画とデザイン』(技法堂出版、1997年)、『都市の水辺と人間行動・都市生態学的視点による親水行動論』(共立出版、1999年)など何

## 海水浴は時代とともに在り方変化

## 「海の家」にさまざまな工夫



海を家の組立解体をヒントに木細工から作った茶室



アルミを使った海の家（2004年設計）

「海の家」を調べると、日本の海水浴の歴史はほとんど整理されていないことに気が付き、まとめることにしました。近年は「海の家」は「ワタシスエム」と読み、海水を体で清めたり、治療したりする湯治のような行為でした。古くから「海の家」は「海の家」とも呼ばれていました。1980年(明治15)年に兵庫県の須磨(明石海岸)でついで患者が湯治をしたのも海水浴(ウミスイエム)です。当時医師であった大野野矢平も同じ時期に愛知県大野野矢の風習を見つけています。それが降、1887(明治20)年頃から今日の遊楽を伴った海水浴(ウミスイエム)へと変化していき、欧州ではカヌーシーズンです。時代とともに海との関係は変化しています。

2021年に出版した『海の家』(水曜社)での問題意識は。「海と建築は一見してなじみませんが、ル・コルブジエは『自由時間デザイン協会』(元余暇開発センター)の発行する『レジャー』の統計では、1970年代から海水浴客数は年々増え、88年にピークを迎えます。80年代は企業が海の家のメンテナンスに見出し、建築デザインに取り入れ、日焼けオイルや飲料水などのシールドとして各種イベントが開催され、その後カフェイベントとして利用されたり、新車発表会

「海と建築は一見してなじみませんが、ル・コルブジエは『自由時間デザイン協会』(元余暇開発センター)の発行する『レジャー』の統計では、1970年代から海水浴客数は年々増え、88年にピークを迎えます。80年代は企業が海の家のメンテナンスに見出し、建築デザインに取り入れ、日焼けオイルや飲料水などのシールドとして各種イベントが開催され、その後カフェイベントとして利用されたり、新車発表会

確かなものを、地球と未来に

一般社団法人  
**日本建設業連合会**

会長 宮本 洋一

東京都中央区八丁堀二丁目一  
電話 03-3553-0707(代表)

<b>安藤ハザマ</b> 代表取締役社長 国谷一彦	<b>前田建設工業株式会社</b> 代表取締役社長 前田操治	<b>西松建設株式会社</b> 取締役社長 高瀬伸利	<b>飛鳥建設株式会社</b> 代表取締役社長 乗京正弘	<b>鉄建建設株式会社</b> 代表取締役社長 伊藤泰司	<b>株式会社フジタ</b> 代表取締役社長 奥村洋治	<b>戸田建設株式会社</b> 代表取締役社長 大谷清介	<b>鹿島建設株式会社</b> 代表取締役社長 天野裕正	<b>株式会社大林組</b> 代表取締役社長 兼 CEO 蓮輪賢治	<b>大成建設株式会社</b> 代表取締役社長 相川善郎	<b>清水建設株式会社</b> 取締役社長 井上和幸
<b>株式会社大本組</b> 代表取締役社長 三宅啓一	<b>株木建設株式会社</b> 取締役社長 株木康吉	<b>株式会社竹中土木</b> 取締役社長 竹中祥悟	<b>大豊建設株式会社</b> 代表取締役社長 森下覚恵	<b>株式会社奥村組</b> 代表取締役社長 奥村太加典	<b>株式会社鴻池組</b> 代表取締役社長 渡津弘己	<b>東急建設株式会社</b> 代表取締役社長 寺田光宏	<b>三井住友建設株式会社</b> 代表取締役社長 近藤重敏	<b>長谷工コーポレーション</b> 代表取締役社長 池上一夫	<b>佐藤工業株式会社</b> 取締役社長 平間宏	<b>熊谷組</b> 取締役社長 櫻野泰則

未来は、つくりがいがある。

この街の未来をつくるために、本間組は考動する。地域の声に耳を澄まし、いま、できることを全てやる。未来という形のないものと向き合いながら、今日も、私たちは走り続けます。

**本間組**  
HONMA  
新潟市中央区西蒲町通三ノ町3300番地3 TEL:025-229-2511(代表)

未来にもっと輝きを

港や道路、橋、空港、鉄道、上下水道などをつくる建設技術。この技術を通して暮らしを支えながら、かけがえのない自然を守り、大切に育てていく。それがあおみ建設の目指す未来です。私たちは、明日をもっと輝かせるために、これからも努力し続けます。

**あおみ建設株式会社**  
〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-2-3 住友不動産御茶ノ水ビル  
TEL: 03-5209-7761(代表) https://www.aomi.co.jp/

人と、社会と、地球の“みらい”をカタチに

**みらい建設工業株式会社**  
〒108-0014 東京都港区芝4丁目6番12号  
TEL: 03-6436-3710(代表) FAX: 03-6436-3736  
https://www.mirai-const.co.jp/

**りんかい日産建設株式会社**  
https://www.rncc.co.jp/

私たちは、人と社会と環境を「with」ともに発展させ、豊かな未来と確かな価値創造をめざしています。

**人・社会・環境との共生へ。** **ともに with**

〒105-0014 東京都港区芝二丁目3番8号 TEL:03(5476)1705/FAX:03(3454)0196